

1 研究主題

筋道を立てて考え、表現する児童の育成
～ 言語活動を重視した算数科の授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校は、教育目標を『確かな学力と豊かな心を持った子どもの育成』とし、キーワードを「鍛える」としている。目指す児童像としては①よく聞き考える子②自分も友達も大切に
にする子③心身ともにたくましい子④最後までがんばる子⑤あいさつのできる子を掲げ
ている。

自分なりの見通しをもって問題解決に取組み、表現しながら考えたり、友達と話し合
いながら新たなことを発見し、分かったことを自分の言葉でまとめることで『確かな学力』
を身につけさせ、また、日常の事象について見通しをもち、筋道を立てて考え、表現する
能力を育成することは、道徳的判断力の育成にも資するものであり『豊かな心』の育成に
もつながると考える。以上のことから、本研究を推進することで、教育目標の具現化につ
ながるものとする。

(2) 児童の実態から

本校の児童は、人懐っこく、明るく元気な児童が多い。指示された学習課題に対してま
じめに取り組むことができる児童が多い。その反面、自分なりに見通しをもってじっくりと
考えたり、筋道を立てて自分の考えを説明したりする力に差がある。主体的に考え、自ら
学ぼうとする学習姿勢にも個人差が見られ、それが家庭学習や読書量の差として表れてい
る。算数は系統的な教科という特性から、学年が進むにつれて苦手意識をもつ児童も増え、
一人ひとりの学力の差が目立っている。昨年度までの研究課題として①思考力・表現力を
伸ばしていくこと②系統的指導の積み上げ③学習習慣の形成、以上の3点が挙げられる。

平成25年度に実施した標準学力調査(3～5年生)、全国学力・学習状況調査(6年
生)の結果、特に、活用問題で期待正答率を下回る結果であった。しかし、全国学力・学
習状況調査の児童質問紙の結果では「算数の勉強が好きですか」という質問に対し、「当
てはまる」と回答した児童が県平均より+1.5%、全国平均より+3.3%、「算数の授業
で問題を解くときに、なぜこの式に表したのかという理由を考えますか」では県平均より
+0.5%、全国平均より+4.8%であった。このことから、昨年度までの取組の成果
が見られ、意欲的に取り組み、説明するための理由を考える児童が増えてきていると言
える。また、1月に実施された県版学力定着状況調査では、同じ調査問題ではないので一
概に比較はできないが、この1年間の取組の成果として、「量と測定」「図形」「数量関係」
の3領域で伸びが見られた。筋道を立てて考えたり、表現したりする「言語活動」を重視
した授業が構築されてきた結果だと考える。しかし、昨年度の課題として算数科B問題や記
述式の問題では無回答率は減ったが、正答率は全国平均、県平均と比較すると低く、「筋
道を立てて考え、表現する力」については、数直線や図を活用して説明できない児童もい

てまだまだ個人差が見られるので、学習の目的に応じたペアやグループの活用を工夫する必要がある。このことから、本校にとって知識・理解の定着を図ると共に、筋道を立てて考え、表現する力についてのさらなる育成が急務であることを示している。

以上の実態から、昨年に引き続いて「筋道を立てて考え、表現する児童の育成」を目的とする本研究主題を設定した。また、昨年度から3年間は取組を継続・発展させるよう、教育課程拠点校事業研究に取組み、算数科授業研究のモデル校として研究推進の役割を担うことになる。そこで、研究部としては『算数科教育課程部会』、実践部として『確かな学力部会』『豊かな心部会』の3部会で組織的なOJTに取り組み、研究を具現化していく。